



# Complete thoracoscopic S9 or S10 segmentectomy through a pulmonary ligament approach

著者名	吉川 拓磨
発行年	2015-04-17
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/31328">http://hdl.handle.net/10470/31328</a>

doi: 10.1016/j.jtcvs.2014.10.111

## 主 論 文 の 要 旨

Complete thoracoscopic S9 or S10 segmentectomy through a pulmonary ligament approach 肺靱帯アプローチによる完全鏡視下 S9/S10 区域切除術

東京女子医科大学外科学（第一）教室

（主任：大貫恭正教授）

吉川 拓磨

The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, In Press

### 【要 旨】

肺靱帯は、胸膜と胸膜が合わさった組織で、容易に肺下葉実質に分け入ることができる。葉間からの剥離を必要としない全く新しいアプローチ法である S<sup>9</sup> 及び S<sup>10</sup> の区域切除術を行った。2009.3 から 2013.9 までに胸部 CT で S<sup>9</sup> もしくは S<sup>10</sup> に位置する 2 cm 以下の結節影を認め、胸腔鏡下に S<sup>9</sup> 及び S<sup>10</sup> 区域切除術を施行した 23 例を対象とした。平均年齢は 62 歳。転移性肺腫瘍 13 例、早期小型肺癌 8 例、良性腫瘍 2 例であった。全例完全胸腔鏡下手術で施行し、S<sup>9</sup> 区域切除が 6 例、S<sup>10</sup> 区域切除が 8 例、S<sup>9</sup>+S<sup>10</sup> 区域切除は 9 例であった。平均手術時間は 188 分。平均出血量は 66 g。ドレーン留置期間は平均 3.7 日であった。

S<sup>9</sup> や S<sup>10</sup> の気管支、肺動静脈は、肺実質奥深くで分枝しているため、S<sup>9</sup> や S<sup>10</sup> の区域切除は難易度が高いが、肺靱帯からアプローチすることで、肺の分葉に関係なく区域切除を施行でき、最短距離で目的の肺動静脈、気管支へ到達可能であった。葉間からの剥離を必要としない新しいアプローチ法で、完全鏡視下 S<sup>9</sup> 及び S<sup>10</sup> の区域切除術を行い良好な結果を得た。